

# ぼくたちがわたしたちの



「将来何になりたい?」と聞かれて「別にない…」と答えてしまうそのキミ。ぜひこのコーナーを読んで下さい。キミが将来やりたいことが見えてくるかもしれません。今回紹介するのは、「文化学」です。

## 分野の特徴

◎文化の総体を、社会とのつながりから研究する  
文化学は、人間が営む「文化」をさまざまな角度から研究する学問です。文学、語学から社会学、歴史学、地理学、人類学など、人文・社会科学にまたがる幅広い研究手法を融合して「文化」の総体を捉える学際的な学問といえます。

研究対象は、人間の衣食住に関わる「生活状況」から習俗や冠婚葬祭などの「生活習慣」、法やしきたりなどの「社会制度」、さらに言語や芸術といった「表現文化」まで、人間の生活と社会のあらゆる領域に広がっています。

世界の各地で営まれている文化を「人類の発展」という視点から捉える「文化人類学」を基礎に発展した新しい学問領域で、世界各地の現地調査をする《フィールドワーク》が重要な研究手法になります。社会学とも似ていますが、社会学では、モデルなどを用いて社会の法則や原理を探るのに対して、文化学では、個別社会ごとに特徴的な物の見方(=尺度)や思想を、人や文化の視点で考えるという、手法の違いがあります。

◎世界の文化の多様性を理解し、国際的な交流をめざす  
文化学が発展した背景には、西欧近代において世界に対する考え方(世界観)が大きく転換したことがあり、す。いわゆる大航海時代に、アフリカやオーストラリアなどの《新世界》に出掛けた人たちが目新しい文化に触れたことで、それまで、西洋と東洋という2つの枠組み

で捉えていた世界観に代わり、自分たちの文化を世界の中で相対的に見直してみようという「比較文化」の視点の導入されたのです。

世界各地の、多様な文化の中で暮らす人種や民族を深く理解することで、お互いが本当の意味で豊かに暮らせる社会を築くにはどうすればいいのかが考えることが、文化学の一つの目的です。



## 何を学ぶ?

### ◎歴史学や地理学ともリンクする広汎な研究領域

「文化学」は、研究対象が広範であり、学生の興味や適性に応じてさまざまな「学び方」が出来る分野です。人類の文化の発展の道の実証する「文化人類学」や「考古学」を軸とする分野、世界の各地域の多様な文化を検証する「比較文化学」を土台に、世界の民族の文化を深く理解し、国際交流と国際協力の方策を探る研究領域があります。大学では、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど地域別の文化を扱う「地域研究」のほか、現代の国際政治や経済を扱う「国際関係学」関連の講義科目を学びます。考古学、人類学の手法で野外で遺跡探索や発掘を行うフィールドワーク、さらに日本にいる外国人との交流や海外での実地研修、留学など、実践的なプログラムも含まれます。

外国語はもちろん、身体や表情によるコミュニケーションなど、文化の異なる人と相互に理解を深めるためのスキルが大切となります。

### ◎現代社会で活躍するための実践的な文化研究も!

一方、《都市》《情報》《環境》《メディア》など、現代に特徴的な文化現象の研究も盛んです。ここでは、こうした現代文化の特性と課題(あり方や生かし方)を新しい視点で見つめ直します。カリキュラムとしては、

まず、「都市論」「マスメディア論」「情報文化論」「環境文化論」など、社会の諸側面に関する講義科目を基礎として学んだうえで、自らの専攻を選んで専門研究に

進むのが一般的です。

また、《メディア》関連では、新聞・雑誌の取材、原稿執筆や映像制作の技法、《環境文化》関連では、環境評価や社会調査の技法、《情報文化》では、コンピュータの利用法やデータベース、ネットワークの構築など、実践技術を修得するための科目も重視されます。

## 学問トレンド

### ◎国際文化を学び、国際交流を実践する学問領域が拡大

文化学の分野は、もともと学際的な傾向をもつこともあり、また最近の学部学科再編の動きとも相まって、複数学問の融合的な学問や、新しい切り口や研究テーマを名称に掲げる学科が登場しています。

まず、文化が由来する地域に着目する学科には、「日本文化学」「英米文化学」があります。また複数の地域の文化を比較研究する「比較文化学」「地域文化学」「国際文化学」なども、このグループです。さらに国際文化学から発展し、国際協力や多民族共存、平和の問題を研究する学科として「国際交流学」「文化交流学」があります。

現代の文化現象を扱うものでは、「コミュニケーション学」「文化コミュニケーション学」「国際コミュニケーション学」などの《コミュニケーション系》の学科が大きなグループを作っています。そのほかに、「情報文化学」「観光文化学」「福祉文化学」など、個別の文化領域に特化した学科もあります。

(参考: 大学逆引き辞典 <http://www.gyakudiki.net/>)

## この職業を探せ!

前号の正解は、航空管制官でした。

22 教室に貼ってある「13歳のハローワークマップ」の中から、次のヒントに合う職業を探してね。

- ヒント1 寒い現地で半年から一年半生活をする。
- ヒント2 強い精神力と健康な身体が絶対条件。

ヒント3 各分野のエキスパートになることが必要。(参考: 13歳のハローワーク公式サイト)

# プラボーぶんぼうぐ

みなさんは、三角定規や分度器はいつも持ち歩いていますか。大きめの筆箱を使っている人はいつもその中に入れているかもしれませんね。かばんに入れていたという人もいるかな。でも、毎日使うものではないので普段は家に置いてある人が多いのではないのでしょうか。三角定規や分度器は小さすぎると使いづらいものなので、ある程度大きくなってはいけません。持ち運びにはちよつとかさばらずに持ち運びできる便利なものがありました。「スケール4」です。三角定規や分度器が一枚のシートになっていて、必要な時に切り離し、使い終わったら元に戻すとまたシートになるというものです。シートをはさんでおく透明のケースが付いていて、このケースが下敷きとしても使えます。下敷きとして使うときは定規や分度器のところまでこぼしていないので、普通に使えます。見事なアイデアですね。かばんの中に入れておけば、下敷きも定規も忘れない、ということになります。これがあれば、忘れ物が多いキミも、安心ですね。



今回の「スケール4」は「プラボーぶんぼうぐ」を読んでくれている小学生が、「先生、こんなものがあるよ。知ってた?」と、教えてくれました。正直、知りませんでしたよ。



いやあ、文房具って、楽しいですね。(手島)